

つり荷作業を安全に

B 作業を始める前に

正しい運転資格を もっていますか？

クレーン付パワーショベルを運転できるのは、「移動式クレーン運転士免許」を取得した人、「小型移動式クレーン運転技能講習」を修了した人、または「1トン未満の移動式クレーン安全衛生特別教育」を受けた人だけです。クレーン作業は、必ず、正しい資格をもつ人が行ってください。

また、つり上げ荷重が1トン以上の移動式クレーンの玉掛作業は、「玉掛技能講習」を修了した人、1トン未満の移動式クレーンの玉掛作業は「玉掛特別教育」を受けた人でなければ行うことはできません。

打合わせは綿密に

作業を行う前には、オペレーター、現場責任者、玉掛作業者、合図者など現場の関係者全員が集まって、作業内容、安全対策、現場環境などについて細かく打ち合わせましょう。ミーティングでの決定事項は、現場の全員が必ず守りましょう。



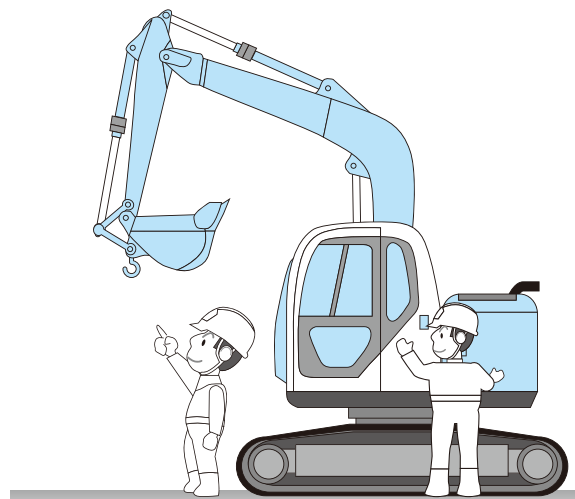
安全は日ごろの 心がまえから

だらしない服装や態度は、大ケガのもと。規則正しく健康な生活、清潔できちんとした身なりを心がけ、気持ちを引き締めて運転席に座りましょう。



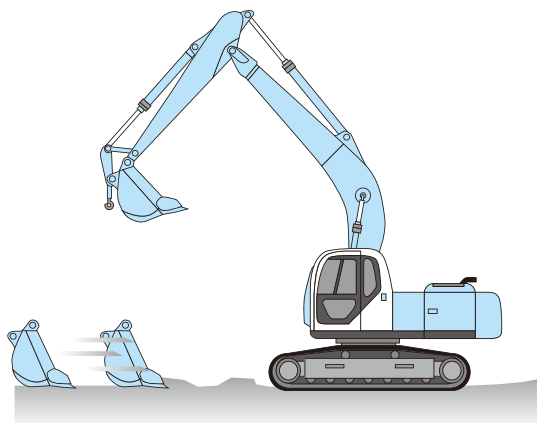
始業点検を確実に

その日の作業を始める前には、取扱説明書に従って本体、クレーン装置を入念に点検します。万一、異常を発見した場合は、補修・交換を行うまでは絶対に使用しないでください。



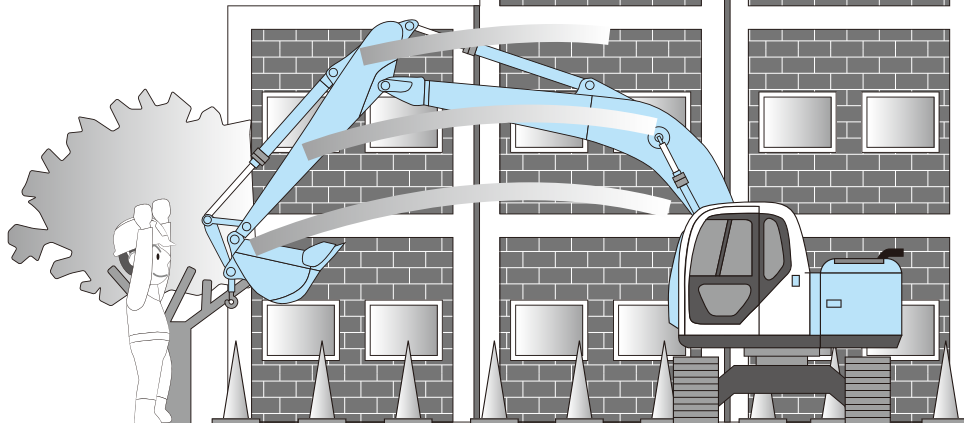
平らでしっかりした 地盤に設置して

クレーン付パワーショベルは、路肩やぬかるみを避け、水平でしっかりした地盤を選んで設置しましょう。地盤の強度が十分でないと、荷をつった時に機体が傾いたりする原因となります。地面が凹凸しているときは、あらかじめバケットできれいに均してください。（掘削作業は必ずフックを格納した状態で行ってください）



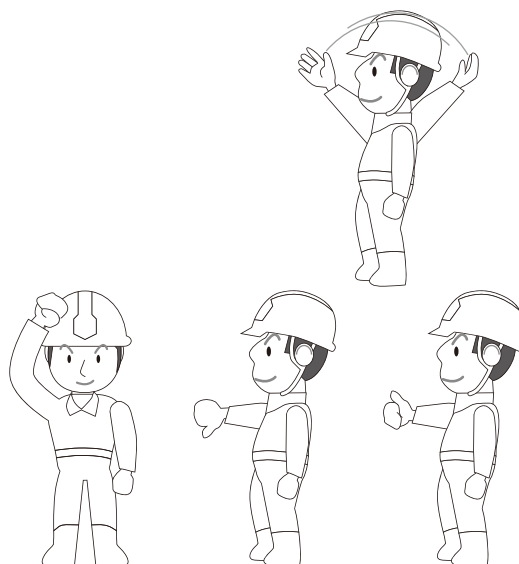
作動範囲は立ち入り禁止に

作業員や歩行者につり荷を当てたり、旋回中の機会に挟まれる事故を防ぐために、本体やアタッチメントの作動範囲内には、絶対に人を立ち入らせてはいけません。とくに、路上に機械を設置する場合には、ワイヤーロープを張り、合図者を置くなど、厳重な対策が必要です。



作業は、合図に従って

作業は、経験豊富な合図者の合図や誘導に従ってすすめてください。合図は必ず決められた人が行い、作業の前に合図の方法などをよく打ち合わせておきます。

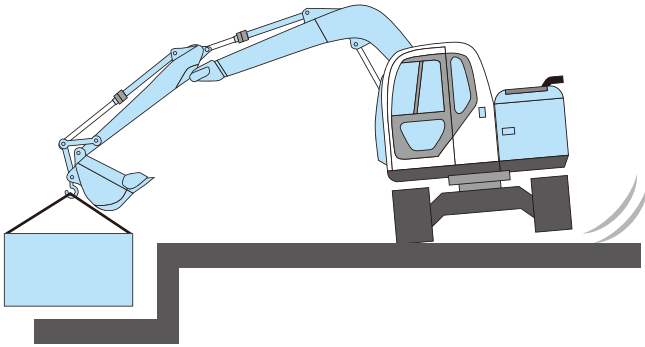


禁止事項

能力オーバーは絶対やめて!

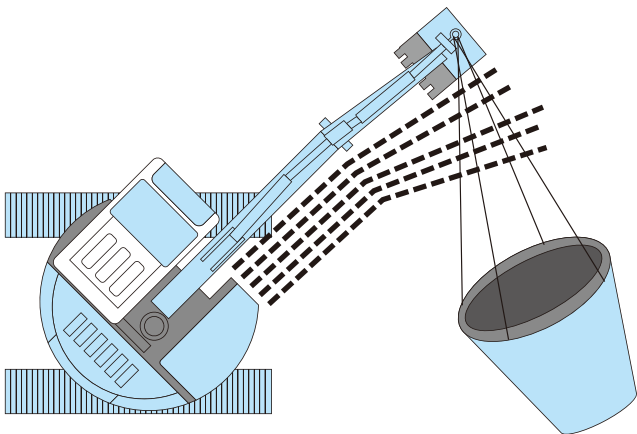
仕様書に定められた定格荷重や作動範囲をオーバーして、荷をつることは絶対にやめてください。機械の損傷や転倒など大事故の原因となります。

※ブームを上げた姿勢では、フックとバケットが干渉しやすくなります。作動範囲図に定められた最大つり上げ高さ以上にブームを上げてはいけません。干渉防止のため、荷をつる前にブームを上げて作業姿勢を確認してください。



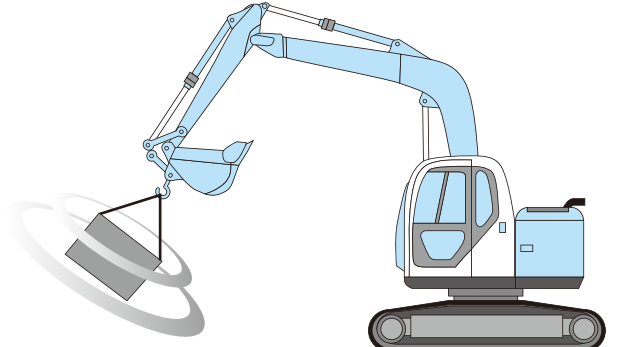
横引き・斜め引きは絶対やめて!

横引き・斜め引きは、アタッチメントを損傷したり、機械の安定性を悪くするばかりでなく、つり上げた荷が揺れて大変危険です。つり荷は、必ずフックの真下でつり上げられるように、機体の位置を調整してください。



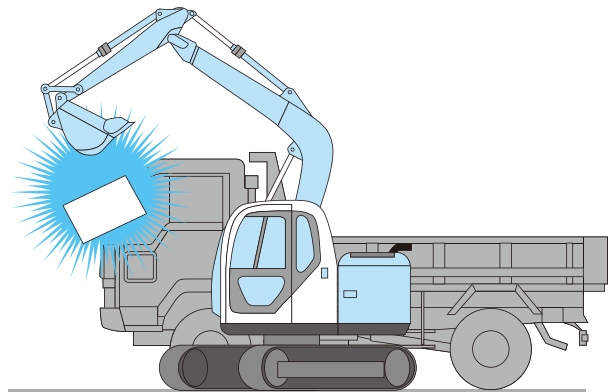
“急”操作は絶対やめて!

急旋回、急発進・急停止、急ステアリングは、絶対にやめてください。つり荷に慣性力が働いて大きく揺れ、機械が不安定な状態になります。また、不用意に急発進すると、周囲の人や構築物に激突する危険もあります。荷をつったら、すべての動作を低速で、ゆっくりと運転してください。



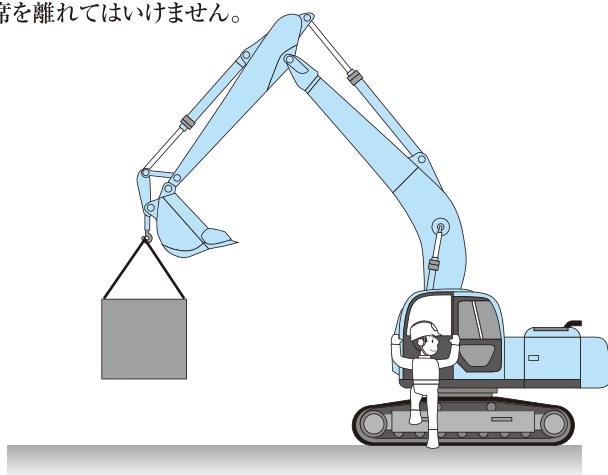
つり荷の頭上旋回は絶対やめて!

万一落下した場合、非常に危険ですから、つり荷が人や、トラックの運転席の上を通過するような操作は、絶対にやめてください。トラック積み込み時には、必ず車輛の後方からアプローチしましょう。



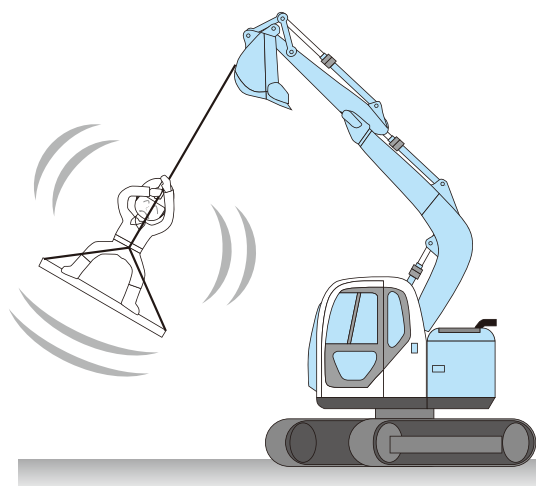
荷をつまままま運転席を離れるのは絶対やめて!

絶対に、荷をつまままま運転席を離れてはいけません。運転席を離れるときは、たとえ短時間でも、必ず、つり荷を地面に降ろし、操作レバーを中立にして、乗降遮断式レバーロックを作動させ、エンジンを停止してキーを抜いて保管してください。これらの措置がとれないときは、オペレーターは、運転席を離れてはいけません。



人のつり上げは絶対やめて!

運転席以外に人を乗せることは、厳禁されています。つり荷に人を乗せて、塗装作業などの足場代わりにしたり、運んだりすることは転落事故の原因になり、非常に危険です。絶対にやめてください。



玉掛の知識

作業開始前の玉掛用具の点検

作業開始前のほか、定期自主検査時にもつり具の異常の有無を検査するとともに、その記録を3年間以上保管してください。

玉掛ロープ

- キック、形くずれがないか
- 磨耗、素線切れはないか
- 給油状態はよいか
- 腐食してないか
- 端末部に異常はないか

フック

- フックに亀裂、磨耗はないか
- ワイヤ外れ止めに変形、損傷はないか

玉掛作業の注意

- つり荷の質量や重心位置を正しく判断する。
- 作業条件やつり荷の種類に応じて最適なつり具を用意する。
- 玉掛ロープのつり角度は、できるだけ小さな角度とする。
- つり荷の形状に応じた玉掛をする。
- できるだけ1本掛けを避けて、2本掛けにする。
- つり荷が水平につり上がるように玉掛する。
- 重心ができるだけ低くなるようなつり方をする。
- 重心の真上にフックを誘導し、垂直につり上げる。
- つり荷の角ばった部分には当て物をして、玉掛ロープとつり荷を保護する。
- つり荷の周囲を整理し、つり荷が重なったり絡まったりしないようにする。